

所蔵における価値と公平：集团的自衛権を主題とした書籍の所蔵

大場博幸（文教大学）

安形輝（亜細亜大学）

池内淳（筑波大学）

大谷康晴（日本女子大学）

ohba@koshigaya.bunkyo.ac.jp

agata@asia-u.ac.jp

atsushi@slis.tsukub.ac.jp

ootaniy@fc.jwu.ac.jp

【抄録】公立図書館における中立・公平な所蔵について検討した。昨年から議論になっている「集团的自衛権」を主題とする92点の書籍の所蔵について調べた。書籍を賛否に従ってグループ分けしたところ、一点当たりの所蔵数において否定派が1.3倍程度有利に所蔵されていた。一方、図書館毎に検討した場合、否定派書籍のみ所蔵する館が全体の43%存在した。こうした結果となった要因について、賛否だけでなく、需要や価格、出版年なども含めて重回帰分析したところ、出版社の信用、需要、価格が所蔵に影響していた。賛否は統計的には有意ではなかったが、一部の図書館の偏った所蔵を説明するうえで適切であると推測した。

1. 研究の背景・目的

「図書館の自由に関する宣言」は“多様な、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集する”ことを図書館に求めている。だが、それが資料選択の面でどのように実現されるべきなのかは明らかではない。本研究では、この問題について検討する。

中立・公平な所蔵といっても一意ではない。対立する見解を持つ書籍に対し、発行点数において公平であるというケースと、需要に対して公平であるというケースの二つが考えられる。実態はどちらに近いのか。また、資料選択にはそうした見解以外の他の要因も影響する。見解の対立はそうした諸要因の中でどの程度の重みをもっているのか。これらについて所蔵調査を行った。

対立する見解を持つ主題として「集团的自衛権」を選んだ。この主題については、2014年7月1日に政府の憲法解釈が変更されており、関連法案を翌年2015年の国会で審議することがその段階で明らかであった。また、2015年6月から7月にかけては、この主題について大きく報道された時期でもあった。したがって、所蔵調査を行った同年夏、図書館関係者はそれが意見対立のある主題であることを十分に認識できていたはずである。

先行研究としては、カリフォルニア州の一部の図書館における妊娠中絶をめぐる書籍の所蔵を調べた Harmeyer の研究¹⁾や、「郵政民営化」および「靖国神社」を主題とする書籍について2006年の日本の公立図書館の所蔵を調べた大場の研究²⁾がある。本研究は調査対象図書館が320館ほどであった後者をより大規模に展開したものであると言える。

2. 調査対象と方法

日本国内で出版された「集团的自衛権」を主題とする書籍の点数は92点ある。ISBNが付与されており、かつ1992年以降（PKO参加以降）に市販された書籍で、かつ国立国会図書館またはCiNiiの蔵書目録で以下のいずれかにあてはまることを基準に選定した。目録上の条件とは、「自衛権」または「集团的自衛権」の語が、タイトルか章題に含まれる、あるいはNDLSHかBSHとなっている、あるいは注記で集团的自衛権が言及される、のいずれかを条件とした。このうち、雑誌の別冊号であることが明らかなものは調査から外した（ただし、ムック本は含めた）。なお、書籍のほとんどは2014年以降の発行であり、うち60点が該当する。これら92点を、筆者の判断によって、賛、否、中立・不明の三つのグループ分けた。なお、中立・不明は11点あったが、その多くは学術論文集であった。

所蔵調査の対象とした図書館は、カーリルAPIを使って検索可能な日本全国の公共図書館で、館数はおおよそ5,003となる。2015年7月10日～2015年7月20日を調査時期として対象書籍の所蔵数を調べた。なお複本数はチェックしておらず、所蔵数とは所蔵館数を意味する。

さらに、NDL-OPACに準拠して調査対象書籍の出版社、発行年、形態、価格などのデータを加えた。加えて需要の指標として、「Bing件数」と「Amazon点」という独自の指標を添えた。

Bing件数とは、調査対象書籍のISBNをキーワードに、Bingを検索エンジンとして検索した際のヒット件数である。Bing独自のアルゴリズムで

重みづけられたインターネット上の言及頻度であり、実売部数とは異なる需要を表現している。ここでは、2015年9月14日9:00時点のヒット件数を指標とした(平均値は12.9)。同様の指標は、大場らの調査³⁾で「話題度」として使用されている。

Amazon 点は Amazon.co.jp の書籍ランキングを加工したものである。92 点の書籍それぞれについて、2015 年 8 月 6 日 10 時、16 日 20 時、26 日 20 時の 3 時点での順位を調べ、それらを平均化した。さらにそれぞれの平均順位を底 e で対数変換し、逆数化したうえ、数値が見やすくなるよう 100 を掛けた。

Amazon 点を用いたのは、次のような理由からである。まず、Amazon.co.jp のランクを使用したのは、調査対象書籍のほぼすべての実売部数を示すはずの唯一の入手可能な指標であったためである(ただし、2 点の書籍の順位が未掲載であった)。また、需要を平均化する必要があったのは、上位にランクされた書籍に大きな変動があるからである(下位ランクの書籍の変動はほとんどなかった)。さらに、それらに対数変換したのは、実売部数に比して下位ほど大きいランク間の差が過大評価されないようにする操作する必要があったためである。これに加えて、ランクが高いものほど値が高くなるよう逆数に変換した。

Bing 件数と Amazon 点が表現する事柄には微妙な違いがある。だが、両者の相関係数は 0.88 と高く、この二つの指標で需要のおおまかな傾向を掴むことはできる。

3. 賛否別の所蔵数と所蔵館数

調査の結果をまず書籍の面から考える。賛否別の所蔵結果は表 1 のようになった。出版点数は否

表1 賛否別の所蔵数

	点数	所蔵数	一点当たりの平均所蔵数	Amazon点の中央値	Bing件数の平均値
賛成	20	2,929	146.5	8.07	16.10
否定	61	11,721	192.1	7.82	12.84
不明・中立	11	234	21.3	7.27	7.73
計	92	14,884	161.8	7.82	12.93
否定*	53	6,949	131.1	7.72	10.00

* 岩波書店刊行書籍を除く

定派に偏っており、3 倍の開きがある。所蔵数を比較すると、否定派の書籍は賛成派の 4 倍所蔵されていることがわかる。出版点数の差を調整すると、一点当たりの平均所蔵数は、賛成派が 146.5、否定派が 192.1 であり、否定派の書籍がおよそ 1.3 倍程度の確率で有利に所蔵されていることがわかる。単純な所蔵数と比較すると、一点当たりの平均所蔵数における賛否の値は平準化している。すなわち、出版点数を基準とするならば、平均的な図書館の所蔵は大きく偏っているようにはみえない。しかしながら、需要を示す二つの指標

(Amazon 点と Bing 件数)を見ると、その値は賛成派のほうが高い。需要も考慮するならば、一冊当たりの平均所蔵数はもう少し対等であるか、あるいは賛成派寄りであってもよいかもしれない。

次にこの所蔵結果を図書館の側から眺めてみる。調査対象書籍を一点以上所蔵する館は、2,569 館あった。所蔵数別館数の内訳を表 2 に示す。最大値は 65 点所蔵の二館、東京都立中央図書館と岡山県立図書館である。市区町村立図書館では、64 点所蔵の大阪市立中央図書館が最も多かった。一方、所蔵の少ない館とは多くの場合、規模の小さい館である。

表 2 では、賛否どちらかの立場の書籍のみを所蔵する図書館の数についても、3 列 4 列目に示している。賛否どちらかに偏った図書館は 1,278 館と全体の半数ある。こうした図書館では対立意見の片方、あるいは中立的な書籍にさえ接触することはできない。特に否定派の書籍のみを所蔵する館が、全体の 43%ある。傾向としては、所蔵の少ない館ほど偏る傾向にあるということが言える。

表2 所蔵数別および賛否別館数

所蔵数	館数	うち賛成のみ	うち否定のみ
1~2点	956	164	678
3~5点	704	5	312
6~9点	453	0	103
10~19点	354	0	16
20点以上	102	0	0
計	2,569	169	1,109

4. 所蔵に関連する他の要因

上のような結果は、個々の図書館が賛否を意識して所蔵をしているためなのだろうか。続いて、所蔵に影響する要因が何かについて検討する。

図書館の所蔵には、対立する意見の賛否以外にも、書籍の価値や需要なども影響すると推測される。これら諸要因のそれぞれの影響の程度を重回

表3 所蔵数に関連する要因（重回帰分析）

独立変数	β 値	標準誤差	標準 β 値	
Bing件数	7.03	1.95	0.417	**
出版社コード	53.85	12.95	0.538	**
価格	-0.02	0.00	-0.250	**
賛否	-10.96	17.57	-0.039	
自由度調整済R ² 値	0.716			**

N=91 * : p < .05 ** : p < .01

帰分析によって割り出すことができる。表3において、Bing件数、出版社コード、価格、賛否を独立変数、所蔵数を従属変数とした切片無しモデルによる分析結果を示した。なお、賛否は、賛=1、否=-1、不明・中立を=0でコード化した。

出版社コードとは、ISBNにおける出版社を示す数値部分を順序尺度化した指標である。代替医療を主題とした書籍の所蔵を検討した大谷らの研究⁴⁾では、公立図書館の所蔵に強く影響する要因として出版社が挙げられており、その際の分析にこの指標が使用されていた。出版社コードは、出版社の規模と創立年の古さを表すものであり、全体としては出版社の信用度を示唆している。操作としては、岩波書店=5、岩波書店以外の2桁出版社=4、3桁出版社=3、4桁出版社=2、5桁出版社=1、6桁出版社=0と付与していった。岩波書店を単独で扱ったのは、図書館で特別所蔵されやすいということがすでに知られているからである。

表3の分析結果からは、賛否は有意ではなく、所蔵数に影響しているわけではないように見える。これに対し、価格、Bing件数、出版社コードは有意である。すなわち、安価で、人気が高く、老舗で信用度の高い出版社刊行の書籍が有利に所蔵されることがわかる。需要が影響するのは予想されたことだが、出版社の影響もまた需要と同程度あることがわかる（大場の研究²⁾は本研究と異なる指標を用いているものの、同様に需要と出版社の創立年の古さの影響を確認している）。出版社の信

用度によって書籍が重みづけられるために、やや賛成派寄りであった需要が相対的に低く評価されて、否定派の書籍が多く所蔵されることになったのだと推定することができる。

5. 賛否かそれとも出版社の影響か

表2と表3が示すことは相反しているように見える。これは説明が要求される結果である。表3は、賛否の影響があまりないことを示している。一方の表2は、「否定派に偏向した」多くの図書館の存在を示している。次にこの点を考察する。

まず出版社コード別の所蔵数を表4に示す。なお、最終列には、2012年の大場らの研究データ⁴⁾も参考として示した。このデータは2006年上半期発行書籍4150点について、2010年時点での公立図書館における所蔵を調べたものである。

表4の列「一点当たりの平均所蔵数」からは、出版社コードの値が大きいほどよく所蔵されていることがわかる。また、その値が高ければ、需要を示す二つの指標も高くなる傾向がある。出版社コードとAmazon点との相関係数は0.61、出版社コードとBing件数との相関係数は0.57である。「出版社で選ぶ」ことはある程度需要にも応える選択となるのである。

また、「一点当たりの平均所蔵数」と最終列の「平均所蔵数（参考用）」と比較すると、「集团的自衛権」を主題とする書籍の場合、出版社コード値の小さい出版社への所蔵の集中率が高い。主題によってこうした変動があることは、先行研究でも同様であった²⁾。

中でも岩波書店刊の書籍は有利に扱われていることがわかる。その8点の書籍はすべて否定派に属する。Amazon点とBing件数が示す岩波本の需要は、他の2桁出版社と同程度でしかない。し

表4 出版社コード別の所蔵数

	点数	所蔵数	一点当たりの平均所蔵数	Amazon点の中央値	Bing件数の平均値	平均所蔵数（参考用）#
岩波書店	8	4,772	596.5	9.29	24.63	449.2
2桁出版社*	7	1,780	254.3	10.89	24.00	271.8
3桁出版社	22	4,434	201.5	8.04	12.18	193.2
4桁出版社	26	2,501	96.2	7.63	11.62	122.7
5桁出版社	20	1,028	51.4	7.49	10.10	98.7
6桁出版社	9	369	41.0	7.14	5.89	75.3
計	92	14,884	161.8	7.82	12.93	173.4

* 岩波書店刊行書籍を除く

2006年上半期発行書籍4150点の一点当たり平均所蔵数

大場ほか(2012)³⁾による2010年公立図書館所蔵データより

かし、岩波本は後者の2倍以上の有利さで所蔵されている。先に示した表1の最後の行には、岩波

本を除いた場合の否定派書籍の所蔵数が示されている。このとき、否定派の一冊当たりの平均所蔵冊数は大きく減少してしまうことがわかる。

表5 出版社コード別否定本のみ所蔵館数

所蔵数	岩波書店のみ	2桁出版社まで	3桁出版社まで	4桁出版社まで	5桁出版社まで	6桁出版社まで	館数
1～2点	211	38	176	188	58	7	678
3～5点	51	13	65	123	52	8	312
6～9点	5	0	19	38	37	4	103
10～19点	0	0	0	4	10	2	16
計	267	51	260	353	157	21	1,109

しかしながら、岩波本だけで否定本のみ所蔵館の所蔵を説明できるわけではない。表5は、否定本のみを所蔵する図書館を所蔵数別に分けて、それぞれ出版社コードにおけるどの程度の桁数の出版社の書籍まで累積的に所蔵しているのかを示したものである。そうした館のうち、岩波のみを所蔵しているがために「偏向」しているのは267館だけであり、全体の24%にすぎない。残りの館のうち半数以上が、3～4桁クラスの出版社までを所蔵している。この事実からは、否定本を明らかに優先している図書館がある、と考えざるをえない。

それでは、回帰分析の結果において、賛否が有意な要因とならなかったのはなぜだろうか。原因として、表1に示したように、一点当たりの平均所蔵冊数の差が小さいことが考えられる。

約4割の図書館が否定本に所蔵が偏っている(表2参照)のに、なぜ平均所蔵冊数の差が小さいままなのだろうか。その理由はおそらく、所蔵に偏りのない図書館において、十分な数の賛成本が所蔵されているからである。表6では、否定本のみ、賛成本のみ、両者または中立的書籍を所蔵する館それぞれにおける、賛否別の所蔵冊数を示した。この表から、偏りのない館においては、賛否別の書籍の所蔵数は出版点数における比(1:3)とかなり正確に同じ程度となっていることがわかる。ここで言う「偏りのない館」とは、賛否どちらかの書籍だけでなく、対立意見を持つ書籍や中立的な書籍を少なくとも1点は所蔵しているというだけの意味であって、所蔵数がどちらかに偏る可能性を否定するものではない。しかしながら、ここでの平均的な「偏りのない館」は、出版点数から見て字義通り「偏りが無い」と言える。その理由が、図書館側が意識的に中立を目指して選択した結果なのか、需要と出版社の信用で選んだ結

果なのかは不明である。こうした複数の図書館の所蔵が、他の図書館がもたらす所蔵の偏りをいくぶんか緩和しているのである。

6. 結論

図書館における中立・公平さは視点によって変わる。需要をベースとした場合は偏りがあるように見えるものの、出版点数をベースとすれば、一点当たりの所蔵冊数において賛否間の隔たりは大きくないものであった。そのような結果をもたらす要因として、出版社の信用、需要、価格が挙げられる。(ただし、十分に質的な要因を含めて分析できなかった点は、今後の検討課題である)。しかし、賛否がまったく所蔵に影響していないとは考えられない。なぜなら、中立的な所蔵をする図書館がある一方で、否定本のみを所蔵に偏った図書館が4割存在していたからである。特に調査対象書籍の所蔵数が6点を超える図書館であっても、119館(表2参照)は否定本のみを所蔵であり、その理由を資料費の少なさに原因を帰すことはできないだろう。一部の図書館はおそらく意識的に偏向しているのである。

【参考文献】

- 1) Harmeyer, Dave (1995) "Potential collection development bias: some evidence on a controversial topic in California" *College & Research Libraries*. Vol. 56, p.101-11.
- 2) 大場博幸 (2011) 「所蔵における公平：公立図書館における「郵政民営化」または「靖国神社」を主題とする書籍の所蔵」『常葉学園短期大学紀要』No.42, p.15-33.
- 3) 大場博幸, 安形輝, 池内淳, 大谷康晴 (2012) 「図書館はどのような本を所蔵しているか：2006年上半期総刊行書籍を対象とした包括的所蔵調査」『日本図書館情報学会誌』Vol.58, No.3, p.139-154.
- 4) 大谷康晴, 安形輝, 池内淳, 大場博幸 (2014) 「代替医療を扱った本とその批判本の所蔵：日本の国立・公共・大学図書館の調査」『第62回日本図書館情報学会研究大会発表論文集』p.125-p.128.

表6 図書館と書籍の対応関係 (所蔵冊数)

	否定本のみ館 (n=1109)	偏りのない館 (n=1291)	賛成本のみ館 (n=169)	冊数計
賛成	0	2,734	195	2,929
否定	2,963	8,758	0	11,721